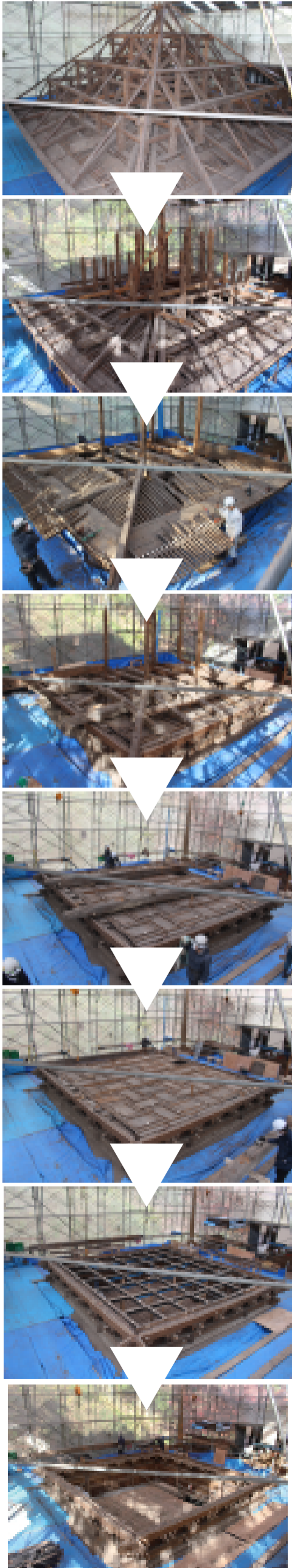


こうじ
工事の
げんば
現場より

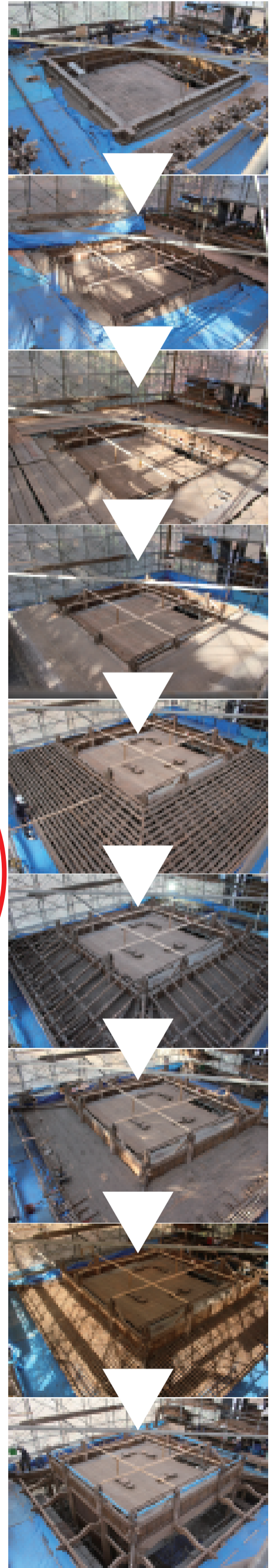
今はこんな様子だよ。



3月 4週目



屋根のてっぺんから始まった解体工事、部材一つ一つを丁寧に外していき、あっという間に骨組みだけになってしまいました。これからは解体で得られた知見をもとに修理の方針・耐震補強の方針を検討し、有識者からなる委員会に諮り方向性を決定していきます。文化財建造物は建物それぞれの性質がまったくバラバラ、なので修理や耐震補強のやり方にはマニュアルなどはなく、一つ一つの建物と向き合って細かく決めていかなければなりません。過去の叡智を守り継ぎ、現在の文化財としての価値を保持し、未来に受け継ぐ。じっくり時間をかけて向き合わなければならない、責任重大なお仕事です。



しりょうちょうさ
史料調査



江戸図屏風 左隻第1扇上右端に「駿河大納言殿（屋敷）」 右が北 国立歴史博物館デジタルコレクションより

解体調査により「徳川忠長※邸を解体し、それをもとに建立した」という本仏殿建立にまつわる伝承の信ぴょう性が高まってきており、徳川忠長※邸にまつわる各種史料の調査も進められています。上図は江戸時代に描かれた江戸の街の絵図、○部分が徳川忠長（駿河大納言）の屋敷を描いたものです。豪華な屋敷構えであったことが分かり、解体調査で発見された部材との親和性が推定されます。このような調査を積み重ね、推定をより明解なものにすることを目指していきます。

※徳川忠長(1606-1634)・・・徳川家康の孫(2代秀忠の三男)